

第2回 公立幼稚園・保育所のあり方検討委員会 会議報告

日時	令和2年10月8日(木) 13時30分～15時
場所	愛荘町役場 愛知川庁舎 第4会議室
出席名	(出席者) 検討委員 7名(欠席1名) 子ども支援課 5名 教育振興課 2名
会議内容	<p>1 開会 事務局</p> <p>2 あいさつ 委員長</p> <p>3 議題</p> <p>(1) 保育・教育量の見込推計 資料1のとおり (質疑・意見)</p> <p>■就園児数の将来推計について</p> <p>【委員】P5について、保育ニーズの率を変えれば就園人数も変わるということだが、今後、宅地開発があれば、保育ニーズも増えるのではないか。</p> <p>【事務局】母子手帳の発行数で1年後の出生人数を把握することができるが、年160～170人くらいであり、徐々に減少している。宅地開発があれば、出生が増える可能性もあるが、今後5年程度でそういうことがあるかと聞かれると難しい。</p> <p>【委員長】保育ニーズが5年間で7.4%増加するという計算で推計値を出している。この7.4%増加という率と、推計値を採用するということでよいか。⇒ 全委員 了承</p> <p>【委員長】この推計値は最小値ということなので、次回、可能であれば、最大値ではどうなるのかを出してほしい。</p> <p>(2) 待機児童対策にあたっての基本的な考え方 資料2のとおり</p> <p>■基本的な考え方について</p> <p>【委員長】事務局が提示した案でよろしいか。⇒ 全委員 了承</p> <p>(3) 保育協議会意見 資料3のとおり</p> <p>【委員】民間保育園の回答は行ったのか。</p> <p>【事務局】検討委員会の内容を報告する中でお答えする、と回答した。</p> <p>(4) 検討すべき対策について</p>

【資料2「待機児童対策にあたっての基本的な考え方」より】

①保育・教育ニーズを踏まえて、できる限り適切に、ニーズに応えられる受入体制を整備することについて

【委員】幼稚園の保護者を見ていると、仕事をしている人が増えている。以前は、9時頃に保育室まで送りにきていたが、年々、朝が早くなり、8時30分までに来ている人もあり、保育室までは来ずに仕事に行かれる。迎えも14時50分になっても来ない人もいる。

【委員】H市でも幼稚園の預かり保育が行われている。民間保育園のことを考えると難しいが、預かり保育を始めていかなければいけない。

【委員】働いている保護者は増えており、14時までとなると仕事がない。保育園に入れるように充実すればよいが、すぐには無理だろうし、幼稚園の預かり保育を進めてもらえると保護者はありがたい。

【委員】8時40分開園では仕事に間に合わないため、早い時間の送迎バスに乗せている。朝も8時30分から預けられたらよいと思う。幼稚園が好きなので、できるだけ幼稚園に通わせたい。

【委員】預かり保育の決定、開始時期はいつ決めるのか。人員確保が必要。

【事務局】預かり保育が必要かどうか、このあり方検討委員会で意見をまとめる。次回、意見の内容を提示する。

【委員】現在行っている入所申込では、幼稚園の預かり保育のことを説明していないため、4月からの開始は無理ではないのか。民間保育園のことも考えて、募集方法も考えるべき。まずは民間保育園の募集を行い、次に公立を募集するなど。預かり保育をするなら、料金のことも決めて募集しなければならない。

②保護者や子どもの負担と安心できる環境の確保から、より身近なところで保育・教育を受けられる環境を整える、④さらなる少子化の進行に対応できる柔軟性を持つ安定した受入体制を検討することについて

【委員長】幼稚園がこども園になったら、2号、3号としてこども園に通いたいのか。

【委員】こども園に入りたいと思う。どれくらいの方が本当は保育園に行きたかったのかわからないが、こども園がいいという人もいると思う。

【委員】母の勤務によって子どもの環境が変わらないというのは魅力。しかし、こども園がどういうものかわからないという人が多いのが現状であり、こども園の良さが知られていないと思う。

【委員】どの保育園、幼稚園、こども園でも、同じ保育・教育を行うように2年前に指針が出された。保育ニーズが高まり、保育園の入所が増えてきたが、どこでも同じ保育・教育が行われていることを保護者に伝えなければいけない。

K市では公立が減ってきて、会社の保育園が増えてきた。保護者は長く、安く預かってもらえる方がいいと思っており、子どもの取り合いになる。

【委員】M市では、幼稚園がこども園になり、民間保育園もこども園になった。小規模保育がたくさんできているが、3歳からの受入がなく、こども園をすることになった。保育士にとっても、保育園、幼稚園からこども園に変わることは、保育士同士が分かり合うのにも時間がかかるため、すぐにこども園にするのは難しいのではないか。そうすると、幼稚園の預かり保育ということになるが、それで待機児童を解消できるのか。

③保育・教育の質を確保するため、保育士・教諭の人材を確保することについて

【委員】つくし保育園は5年前に園舎を建てて、過去には128名を預かったこともある。公立であるため、保育ニーズに答えなければいけないが、育休や産休の職員、時短勤務の職員もあり、会計年度任用職員は勤務時間がいろいろ異なるため、シフト制をとっている。また、県の奨学金制度により、5年間は保育園に勤務しないといけないという条件がある。愛荘町は公立保育園が1園のため、幼稚園への異動ができず、保育士の育成や組織体制に課題がある。

【委員】保育士を目指す学生に対し、大学でも指導はしているが、就職後も、園内研修を行い、保育士を育ててほしい。

■まとめ

【委員長】①について、民間保育園のことも考えなければいけないが、保護者のニーズを考えると、幼稚園の預かり保育は必要である。②④について、こども園に関する意見が出されたが、先々のことを考えながらもう少し時間をかけて検討する。③の保育士確保についても、方策について検討する。